

タイ ～政治の安定は戻るか～

経済調査部 上席研究員 山中 崇
tyamanaka@iima.or.jp

8月8日、タイ貢献党のインラック氏（タクシン元首相の妹）がタイ初の女性首相に就任した。インラック政権の最優先課題は、2006年の軍事クーデターでタクシン元首相が追放されて以来続いている政治混乱の解消である。ただし、混乱の原因は表面的にはタクシン元首相支持派と反タクシン派の対立だが、その本質は民主主義の在り方をめぐる階層間の闘争であることから、政治の安定を取り戻すのは容易ではない。

タイにおける民主化の歴史

タイでは戦後長らく軍部による独裁政治が続いた。1973年、学生の民主化運動をきっかけに国王が介入して民政に移管されたが、1976年のクーデターで再び軍政に戻った。その後、タイでは「学生・市民の蜂起」→「国王の介入」→「軍のクーデター」が繰り返されることになる。1990年代に入ると民政が続く中で民主化が徐々に進んだが、その形は国王と国民が主権を分け合う「タイ式の民主主義」だった。平時は、国王は政治に関与しないが、危機が発生すると介入して事態を収拾する。こうした国王の権限は法律により保証されたものではなく、国民の国王に対する忠誠が基になっていた。

民主化を主導したのは都市部の知識人・実業家・官僚などのエリート層である。彼らは王制擁護派で、政治家性悪説から選挙軽視の姿勢をとった。当時は農民や都市の低所得層の票を金で買う不正選挙が横行しており、選挙でまともな政治家は出てこないと考えていたからである。そこで、選挙で選ばれた者よりも徳の高い者による「質の政治」を目指すようになった。このため、1997年の憲法改正では、選挙違反に厳罰を与え、政治家を厳しく監視する制度を設けた。また、政治家が自己の利益のために小政党をつくることを抑えるために小選挙区制を導入した。

しかし、1997年憲法による初の選挙となった2001年の総選挙は、彼らの思惑とは裏腹の結果をもたらした。タイ愛国党が第1党となりタクシン政権が発足すると、タクシン首相は「質の政治」ではなく「数の政治」を進めたのである。

タクシン首相は、農民や都市の低所得層をターゲットに、30パーセントで医療が受けられる制度や農民負債の返済猶予などのポピュリスト的政策を掲げて選挙戦を戦い、政権獲得後はこれを着実に実行した。その結果、それまで政治に無関心で票を売っていた人々が、自らの投票によって政治・生活が変わることを実感し、有権者意識に目覚めることになった。こうしてタイに「普通の民主主義」が広がり始めた。タクシン人気は地方を中心に急上昇し、2005年の総選挙ではタイ愛国党が史上初の単独過半数を獲得し

て大勝利を収めた。

民主化への抵抗に端を發した政治の混乱

選挙により首相の権威が高まるのに伴い、タクシン首相の強引さ、奢りが目立ち始めた。一方、国王の権威は相対的に低下し、それまで政治の中心にいた知識人や王族、裁判所、軍部などの危機感が高まった。彼らは民主化の流れを巻き戻そうとした。そこで、選挙では勝てないのでタクシン首相を悪者にし、タクシンのなものをすべて否定することで自らを正当化しようとした。折しも 2006 年 1 月にタクシン首相の不正蓄財疑惑が発覚した。窮地に追い込まれたタクシン首相は国会を解散し総選挙に踏み切ったが、野党はこれをボイコット。憲法裁判所は、選挙は無効との判断を下した。9 月になるとタクシン首相の外遊中に軍がクーデターを起こし、タクシン首相は追放された。

こうしてタイの政治の混乱が始まった。2007 年 5 月にはタイ愛国党が選挙違反を理由に憲法裁判所から解党命令を受けた。12 月の総選挙では地方におけるタクシン元首相に対する根強い支持を背景にタクシン派の国民の力党が第 1 党となりサマック首相が就任した。ところが、2008 年 9 月に憲法裁判所がサマック首相のテレビ出演に違憲判決を出し、首相が失職。12 月には憲法裁判所がまたもや選挙違反を理由に国民の力党に解党命令を出し、政権が崩壊した。その後、タクシン派の一部が野党民主党に寝返り、アピシット政権が誕生した。

すると、今度は相次ぐ選挙結果の無視に反発してタクシン派が猛反撃に出た。亡命先からのタクシン氏の呼び掛けもあって、農民や都市の低所得層からなるデモ隊が総選挙を要求してバンコク中心部を占拠した。新政権はこれを力づくで弾圧しようとし、デモ隊と治安部隊が激しく衝突。2009 年 4 月にはタクシン派のデモ隊がアセアン首脳会議の会場に乱入し、会議を中止に追い込むという大混乱が生じた。

アピシット前政権は 2011 年 3 月に総選挙を行うことを決断し、5 月に国会を解散した。しかし、華やかな容姿を持ったインラック氏の出馬もあり、7 月 3 日の総選挙はタクシン派であるタイ貢献党の圧勝に終わった。

タイに「普通の民主主義」は根付くか

今回の選挙結果を民主党も軍部も受け入れるとしているが、これでタイに政治の安定が戻るとみるのは早計である。もちろん希望がない訳ではない。反タクシン運動の中心である民主市民連合 (PAD) は今回の選挙で内部対立を起こし、かつての力を失っている。また、民主党前政権の経済・社会政策は基本的にポピュリスト的なタクシン路線を踏襲しており、与野党の政策の違いはそれほど大きくない。タクシン派と反タクシン派が妥協し、国民融和に進むシナリオも考えられる。

しかし、タイではこれまで選挙結果をクーデターや司法の介入で覆すことを繰り返してきた。従って、亡命中のタクシン元首相の帰国などをきっかけに、再び軍や司法の介入によりインラック首相が失職したりタイ貢献党が解党命令を受けたりすることで、政治対立が再燃する可能性も残っている。結局、農民・低所得層の政治参加というタイ政治の構造変化を反タクシン派が受け入れない限り、何回選挙を行っても対立に決着はつかないのである。タイに普通の民主主義が根付くかどうか、今しばらく見極めが必要と思われる。

近年のタイの政治動向

年	月	主な出来事
2001	1	総選挙でタイ愛国党が第1党に。タクシン首相就任。
2005	2	総選挙でタイ愛国党が史上初の単独過半数を獲得。
2006	1	タクシン首相の不正蓄財疑惑発覚。
	4	総選挙でタイ愛国党が圧勝。
	9	軍のクーデターでタクシン首相追放。
2007	5	憲法裁判所がタイ愛国党に解党命令。
	12	総選挙でタクシン派の国民の力党が第1党に。
2008	1	サマック首相就任。
	9	憲法裁判所がサマック首相に違憲判決。
	12	憲法裁判所が国民の力党に解党命令。
2009	4	タクシン派デモ隊がアセアン首脳会議に乱入。
2011	5	下院解散。
	7	総選挙でインラック氏率いるタイ貢献党が圧勝。
	8	インラック政権発足。

(出所) 各種報道より筆者作成

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2011 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-Chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>